

共同プロジェクト「浮体式洋上風力発電の量産化及び低コスト化」の
グリーンイノベーション基金事業「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト」採択について

ジャパン マリンユナイテッド株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役社長:千葉 光太郎、以下「当社」)は、日本シップヤード株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:前田 明德、以下「日本シップヤード」)、ケイライン・ウインド・サービス株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:久下 豊、以下「ケイライン・ウインド・サービス」)、東亜建設工業株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:秋山 優樹、以下「東亜建設工業」)の3社と共に、この度、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が公募したグリーンイノベーション基金事業「洋上風力発電の低コスト化プロジェクト」に共同で応募し、採択されました。

日本国政府は2050年カーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーを最大限導入する方針を打ち出していますが、特に、洋上風力発電は、大量導入やコスト低減が可能であるとともに経済波及効果が期待されることから、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札と考えられています。遠浅の海域の少ない日本においては、深い海域でも導入余地が大きい浮体式風力発電への期待が高まっていますが、その普及にあたっては技術開発を通じた量産化及びコストの大幅低減が必須となります。そのような背景を受け、共同プロジェクト「浮体式洋上風力発電の量産化及び低コスト化」(以下「本プロジェクト」)では、浮体基礎・係留システム・海上工事(風車浮体設置及び風車搭載)のEPCI(設計・調達・製造・据付)全体で量産化及び低コスト化を実現することを目指し、以下の各社役割のもと共同で研究開発を実施します。

【本プロジェクトにおける各社役割】

会社	役割
ジャパン マリンユナイテッド	浮体基礎の開発・製造及び浮体式洋上風力発電のEPCI ・浮体基礎の最適化 ・浮体の量産化 ・ハイブリッド係留システムの最適化 ・低コスト施工技術(風車浮体設置・風車搭載)の開発
日本シップヤード	浮体基礎の設計検討及び洋上風力作業船の設計検討 ・浮体基礎最適化の設計検討 ・浮体量産化の設計検討 ・ハイブリッド係留システム最適化のための設計検討 ・低コスト施工技術(風車浮体設置・風車搭載)開発のための設計検討
ケイライン・ウインド・サービス	施工技術開発(風車浮体設置) ・低コスト施工技術(風車浮体設置)の開発
東亜建設工業	施工技術開発(風車搭載) ・低コスト施工技術(風車搭載)の開発

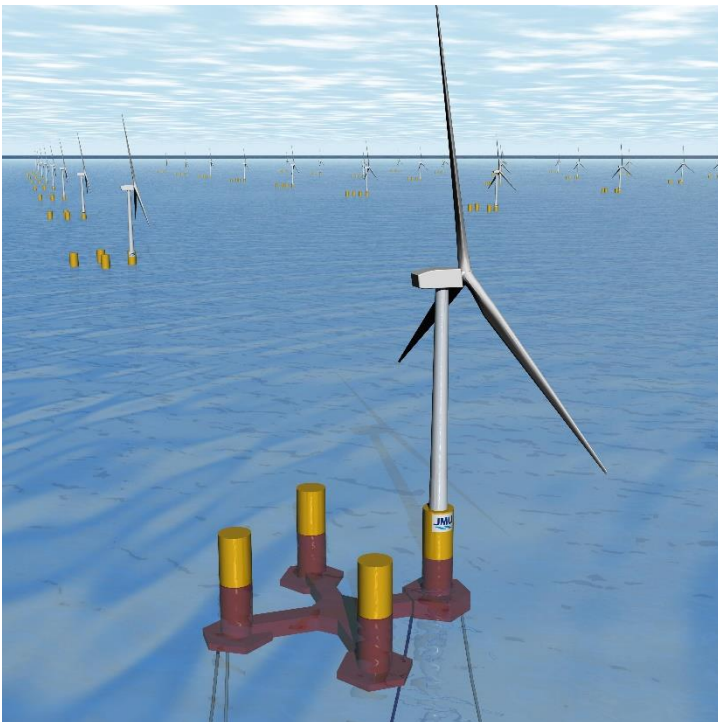
また、当社が実施する「浮体基礎の最適化」及び「ハイブリッド係留システムの最適化」につきましては、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所にも共同研究者として参画していただきます。

当社は、「福島浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業」にて得られた浮体建造・設置・保守管理の知見を活かし、浮体製造費用だけでなく海上工事・保守管理費用も含めた全体コストの最小化を目指した大型風車用セミサブ型浮体を開発し、2021年6月にDNV(ノルウェー船級協会)よりSTATEMENT OF FEASIBILITYを取得しており、本プロジェクトにおいても同セミサブ型浮体を用いてそれぞれの研究開発を実施します。

そして、本プロジェクトでの開発成果・実績に加え、世界初の技術を含む長年にわたり培ってきた船舶・海洋構造物の技術開発力、福島浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業での実績、日本最大級の建造能力など、当社の既存の強みを融合させ、浮体式洋上風力発電 EPCI 事業の早期事業化を目指します。

当社の浮体式洋上風力発電事業への取り組みは1999年の自社研究開発の開始から、福島での実証研究事業を経て現在に至る長期的なものですが、2050年カーボンニュートラル実現に向けその重要性はますます高まっております。当社は、本プロジェクトを含めこの取り組みを今後さらに加速・強化し、浮体式洋上風力発電の社会実装並びにカーボンニュートラルの実現を目指し、全社一丸となって取り組んで参ります。

(セミサブ型ウインドファーム イメージ)



問い合わせ先：
総務部 広報グループ
TEL: 045-264-7164/7168